



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

1月号—No.308

2021.1.1

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【紅の八塩(くれないのやしお)】濃く深みのある紅色。

日本では紅花で染めた色を「紅」と称して愛好してきた。薄いものから濃いもの、本物を使ったものから代用紅を使ったもの、他の色と重ねて染めたものまで、紅色にまつわる多くの色名がある。「紅の八塩」は奈良時代の色名で、「八」は多い、「塩」は「入(しお)」という浸すことを意味し、何度も染め汁に浸した濃い紅色を指す。

●目次 / contents

地域創造理事長 新年のご挨拶.....2

今月のニュース.....4

第21回「地域伝統芸能まつり」のご案内

財団からのお知らせ.....6

令和2(2020)年度ステージラボオンラインセッション「ワークショッププログラム」参加者募集のお知らせ/公共ホール音楽活性化事業(おんかつ導入プログラム)登録アーティストに関するお知らせ/令和3(2021)年度地域創造事業実施時期の変更について/令和3(2021)年度「リージョナルシアター事業」研修会報告/令和2(2020)年度「公共ホール音楽活性化事業」スタート/地域創造ホームページ「特別寄稿 ビューポイント viewpoint」第2回掲載のお知らせ

今月の情報.....9

地域通信

今月のレポート.....12

神戸市 横尾忠則現代美術館「横尾忠則の緊急事態宣言」

～新年のご挨拶～

一般財団法人地域創造理事長 山本信一郎

明けましておめでとうございます。

当財団の事業にご支援・ご協力いただき、関係の皆様には心から御礼申し上げます。

昨年は、文化・芸術にとってこれまで経験したことのない未曾有の年でした。

「演じるために集まる」、「聴くために、観るために集まる」ことが文化・芸術の根本ですから、感染症の蔓延はその基盤そのものをゆるがすものでした。アーティスト、ホール関係者、自治体当局は未知の事態に直面し、「やるのか、やめるのか」、「それをいつ判断するのか」、「やるとしたらどのようにやるのか」、「やめて今後どうするのか」などの判断を迫られ、すべての人が懊悩したのではないのでしょうか。当財団も同様でした。

アーティストの皆さんは、表現の場をなくして途方にくれ、存在意義を自ら問われた方も多かったのではないかと思います。東日本大震災後のときは、避難場所などを訪れ演奏する、そしてその輪が広がっていったように文化・芸術の力が認識されましたが、今回は違いました。ある日突然、街が閉じてしまったのですから。制御できない、自分の意志ではどうにもならない事態、しかもグローバル化によって世界が同じようになってしまい、どこにも行きようがなくなってしまう。お聞きしますと、演奏技術の維持、向上に努力されていたのはもちろんですが、いつ公演できるのかわからない状況ではテンションが上がらないということでした。オンラインで演奏を届ける試みも見られましたが、その努力に敬意を払うものの、やはり生の演奏とは全く異なるものです。音だけとっても、生の音は、芯のある輝かしい響き、それに霧か靄のようなしっとりとした薄いものが纏わりついているような感じがします。今回の事態が文化・芸術にどんな影響と変化をもたらすのか考えさせられます。

当財団の事業も昨年秋ごろからぼつぼつ再開していきました。私は、狛江市、広島県府中市での公共ホール音楽活性化事業、いわき市のリージョナルシアター事業、富山市での公立美術館活性化事業に参加しました。狛江市では小学4年生へのピアノ、府中市では中学生へのヴァイオリンのアウトリーチでした。一流の演奏家の迫力ある生の演奏に圧倒されている様子がよく窺えました。いわき市では山あいの中学生7人(2校合同)が対象。地元に残る悲恋物語を生徒が演じ撮影しました。脚本の大枠は演出家が設定、一部のセリフは生徒が創り、近くの神社の境内や階段を舞台に演じ、校長先生やホール職員、我々もエキストラ出演して、まさにワークショップそのものでした。生徒たちは意外に「演じる」ことにうまく溶け込む様子でした。「演じる」という作法が、人との関係や社会との関わりをより豊かなものにしていく可能性を感じました。

音楽、演劇、ダンス、美術などの文化・芸術は、今回、公衆衛生の見地からストップを余儀なくされましたが、文化・芸術は人間社会にとってなくてはならないものです。時代によってその意味合いは変化するものかもしれませんが、人にやすらぎや慰め、楽しみ、勇気を与えてくれます。そして

文化・芸術は、日常を少し超える何かを与えてくれる気がします。ホールや劇場などは、そういう意味では日常生活とは異なるハレの時間と空間を与えてくれる存在でもあるのではないのでしょうか。

当財団では、職員一人一人がそれぞれの立場でアーティストを支え、公共ホールの声や要望に柔軟に耳を傾け、培ってきたノウハウや実力を力いっぱい活かして努力をしています。本年も、いまだ不透明な状況ですが、関係の皆様と力を合わせ、都道府県、市区町村のご支援をいただきながら文化・芸術による地域創造に邁進してまいります。

本年が良い年になりますようお祈りをしまして、年頭のご挨拶といたします。

2021年1月

2021年1月～3月 地域創造事業スケジュール

当財団では年度末まで、全国各地でさまざまな事業を展開しておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業が中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

1月

- 市町村立美術館活性化事業
瀬戸蔵ミュージアム・瀬戸市美術館所蔵「瀬戸焼 受け継がれる千年の技と美」(東根市公益文化施設 まなびあテラス)/～1月31日
- 公共ホール現代ダンス活性化事業
神戸市Cプログラム(神戸アートビレッジセンター)/1月14日～17日
福島県白河市Cプログラム(白河文化交流館コミネス)/1月28日～31日
- 公共ホール邦楽活性化モデル事業
埼玉県上里町(上里町総合文化センター ワープ上里)/1月21日～23日

2月

- 市町村立美術館活性化事業
瀬戸蔵ミュージアム・瀬戸市美術館所蔵「瀬戸焼 受け継がれる千年の技と美」(江別市セラミックアートセンター)/2月7日～3月21日
- 公共ホール邦楽活性化モデル事業
埼玉県秩父市(秩父宮記念市民会館)/2月9日～11日
- 公共ホール現代ダンス活性化事業
沖縄県浦添市Bプログラム(アイム・ユニバース てだこホール)/2月11日～14日
愛知県小牧市Bプログラム(小牧市市民会館)/2月11日～14日、23日～27日
岩手県宮古市Bプログラム(宮古市民文化会館)/2月24日～3月1日
- 第21回地域伝統芸能まつり(東京都・NHKホール)/2月21日
- ステージラボオンラインセッション/2月24日～26日
- 公共ホール音楽活性化事業
山形県長井市(長井市民文化会館)/2月26日～28日

3月

- 公共ホール現代ダンス活性化事業
沖縄県浦添市Bプログラム(アイム・ユニバース てだこホール)/3月4日～8日
山形県鶴岡市Bプログラム(荘銀タクト鶴岡)/3月5日～7日、24日～29日
高知県土佐清水市Cプログラム(土佐清水市立市民文化会館 くろしおホール)/3月19日～22日
- 公共ホール音楽活性化事業
滋賀県長浜市(木之本スティックホール)/3月11日～13日

●「地域伝統芸能まつり」

21回目のテーマは「競う～互いに競い、自分を磨く。～」

第21回
地域伝統芸能まつり



平成30(2018)年度 第19回地域伝統芸能まつり オープニングの様子

地域創造では、地域の重要な資源である地域伝統芸能の保存・継承・活用を支援しています。なかでも、日本各地域の伝統芸能と古典芸能がNHKホールに一堂に会し、個性豊かなさまざまな芸能が歴史的・地域的な解説とともに披露される「地域伝統芸能まつり」は、日本の芸能のすばらしさや地域の伝統の重みを再認識する機会として高く評価されています。

平成12年度から毎年開催されてきたこのまつりでは、これまで、全国47都道府県から190演目が披露されました。21回目となる今年のテーマは、「競う～互いに競い、自分を磨く。～」。

テーマに沿った、日本各地域の伝統芸能6演目と古典芸能1演目をご紹介します。

◎出演予定の地域伝統芸能・古典芸能(出演順予定)

行祭事名または演目	地域または出演者	都道府県単位でみた場合の出演回数
秋田竿燈まつり	秋田市(秋田県)	9回目(2年ぶり)
一人角力	今治市(愛媛県)	6回目(5年ぶり)
座喜味棒術	読谷村(沖縄県)	8回目(4年ぶり)
江戸火消しの梯子乗り	東京都	6回目(4年ぶり)
能「舍利」観世流(短縮版)	坂井音重ほか	—
三島囃子	三島市(静岡県)	4回目(8年ぶり)
阿波おどり	徳島市(徳島県)	3回目(7年ぶり)

[日時] 2021年2月21日(日)
午後1時30分開演(午後0時30分開場)
[会場] NHKホール(東京都渋谷区神南2-2-1)
[入場] 無料(事前申込制)
[主催] 地域伝統芸能まつり実行委員会
一般財団法人地域創造
[後援] 総務省、文化庁、観光庁、NHK
[協力] 日通旅行株式会社

◎応募方法 インターネット(パソコン、携帯電話等)
募集サイト <https://www.nhk-p.co.jp/chigeisai2021/>
(今回は、インターネットでのご応募となります。郵便往復はがきでのご応募はできません。)
応募締切: 2021年1月31日(日) 午後11時59分

◎お問い合わせ ハローダイヤル
Tel. 050-5541-8600(全日8:00~22:00)

- *応募多数の場合は抽選となります。
- *新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、お客様同士の間隔をとった座席を、入場整理券で事前に指定させていただきます。
- *ご来場は当選された方と、申し込み時にご同伴者として登録された方に限らせていただきます。それ以外の方へのチケットの譲渡はお断りいたします。
- *ご応募いただいたお客様の個人情報は、本事業の抽選、当落選告知および個人を特定しない統計資料の作成の目的で使用させていただきます。また、公演後、会場にて新型コロナウイルス感染症への感染が疑われる事象が発生した際に、必要に応じて保健所、自治体等の公的機関へご来場の方の情報を開示する場合を除き、お客様の事前の承諾なく個人情報を業務委託先以外の第三者に開示・漏洩しません。
- *新型コロナウイルス感染症の感染状況や、荒天などの理由により公演を中止する場合があります。また、各地域の感染状況や移動制限などにより、ご来場をお控えいただくことがあります。最新の情報は、「地域伝統芸能まつり」のホームページなどでお知らせいたします。
- *ご来場時、また会場内では必ずマスクを着用し、咳エチケット、手指の消毒など感染防止にご協力ください。
- *「地域情報PRコーナー」(出演団体の地域の物産展)は設置いたしません。

●「地域伝統芸能まつり」に関する問い合わせ
総務部 山本
Tel. 03-5573-4056

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

●第21回地域伝統芸能まつり プログラム紹介(予定)

*演目は変更される場合もありますのでご了承ください。

ひとりずもう (愛媛県今治市)



毎年春の御田植祭と、秋の抜穂祭において、大山祇神社で行われる相撲神事です。目に見えない稲の精霊と相撲を取るため一人角力といわれます。「稲の精霊」と「一カ山」による三本勝負で行われ、稲の精霊が2勝1敗で勝つことで春には豊作が約束され、秋には収穫を感謝するという意味があります。

その歴史は650年以上に遡るといわれ、一時は途絶えるも、地元の奉仕者の尽力により平成11年に復活を果たしました。愛媛県指定無形民俗文化財。

江戸火消しの梯子乗り(東京都)



消防出初式は、年明けの恒例行事として各地で行われています。今日では様々な消防演技が披露される中であって、「纏振り」や「梯子乗り」、「木遣歌」は、江戸時代の町火消の心意気を今に伝えています。梯子乗りの起源は定かではありませんが、消防出初式の元祖といわれる上野東照宮前の「出初」に由来すると伝えられています。現在、各自治体の消防出初式において演じられる梯子乗りは、主に消防団員が行っていますが、東京消防出初式では、「江戸消防記念会」がその技を保存、伝承しています。

三島囃子(静岡県三島市)



三島囃子は、天文年間(1532~54年)の頃、三島明神の神領内の若者たちに伝えられた「お囃子」と、江戸時代に西と東の文化が混ざり独自に発展した「しゃぎり」の総称です。8月の「三嶋大祭り」では、当番町の山車引回しを中心に大通りに10数台の山車が並ぶ「山車シャギリ大会」などが行われ、市内

中に三島囃子の音色が響き渡ります。中でも「競り合い」は町内ごとの山車が対面したときなどに、競い合っ行って行う勇壮な演奏で、この祭りのハイライト的な存在であり、三島の夏の風物詩ともなっています。

あきたかんとろ 秋田竿燈まつり(秋田県秋田市)



江戸時代中期、お盆を前に邪気や病魔を払い、身を清める「ねぶり流し」と、五穀豊穡の願いを込め、提灯を米俵に竿燈全体を稲穂に見立てて練り歩いたことが由来とされています。現在は、8月3日~6日の4日間、竿燈大通りを会場に開催されています。各町内や各種団体が重さ約50キロの竿燈を手のひら、額、肩、腰などに乗せて、次々に差し手による妙技が披露されます。今日では、各種団体・企業から280本を超える竿燈が出竿されて、その風情はまるで風にそよぐ黄金の稲穂のようです。

どきみぼうしつ 座喜味棒術(沖縄県読谷村)



座喜味棒術は、約500年の歴史を持ち、座喜味城主護佐丸公の時代に遡るといわれています。棒術は自分達の身を守るだけでなく、集団で村の防衛を果たすものでもありました。沖縄各地には様々な棒術が伝わっていますが、「座喜味棒」は実戦的であることが特徴です。6尺棒と3尺棒を自在に操り、常に相手の急所を狙って攻める戦いは、緊迫感と様式美に溢れています。座喜味棒保存会は1975年に設立され、県内での演武はもとより、東京、ブラジル、ハワイ、韓国、台湾など県外国外でも技を披露してきました。現在は、後継者育成を目的に子ども会へ指導者を送り、継承発展に努めています。

能『舍利』観世流(短縮版) [出演]坂井音重ほか



韋駄天が登場する能『舍利』をお楽しみいただけます。NHK大河ドラマのタイトルともなった「いだてん」とは足の速い人のことを言いますが、本来は仏殿などを守護する足の速い神様のことです。その韋駄天が仏舍利、つまりお釈迦様の遺骨を奪った鬼を捕まえたとの伝説があります。旅の僧が都・泉涌寺で舍利塔を拝んでいると、怪しい男が現れ舍利塔を奪い逃げていきます。僧が祈ると韋駄天が現れ、犯人の足疾鬼を追いかけ舍利塔を取り戻します。足疾鬼と韋駄天のスピード感のある舞台が展開します。

あわ 阿波おどり(徳島県徳島市)



阿波おどりは400年を超える歴史を持つといわれる、徳島が世界に誇る伝統芸能です。期間中は街中に軽快な音色(ぞめき囃子)と情感あふれる「よしこの」が響き、踊り子や見物客の身も心も弾みます。自由な民衆娯楽として大きく開花した阿波おどりは、東京・高円寺、埼玉・南越谷をはじめ全国各地

に根付いたうえ、度々海外公演も開催されるなど、今や世界的にもその名を知られています。

財団からのお知らせ

●ステージラボオンラインセッション「ワークショッププログラム」参加申し込み方法

当財団ホームページ「研修事業」→「ステージラボ」より、募集要領・申込書類をダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。

<https://www.jafra.or.jp/project/training/01.html>

申し込み先:kensyu@jafra.or.jp

●ステージラボに関する問い合わせ
芸術環境部 児島・吉川・崎山
Tel. 03-5573-4183

●ステージラボ オンラインセッション 全体の概要

◎テーマ

「[地域]と“育む”これからの劇場運営」
地域の資源や特色、人材を発見する目と、それを地域と一緒に育む対話力と、発信していくための方法を考察し、これからの劇場運営のあり方と、文化施設職員に求められる役割について考えます。

◎開催概要

[日程]2021年2月24日(水)～26日(金)

[会場]オンライン

※双方向オンラインツール(Zoom、Googleドライブ、Spatial.Chat等)を使用予定

[実施予定プログラム]シンポジウム、ワークショッププログラム、オンライン交流会、アーカイブ配信(映像による研修)など

◎ワークショッププログラム参加者募集

2020年12月18日(金)

～2021年1月20日(水)

◎視聴者募集

2021年1月25日(月)～

※一部プログラムは視聴対象外となる可能性があります。

●公共ホール音楽活性化事業(おんかつ導入プログラム)登録アーティストに関する問い合わせ
芸術環境部 佐藤・山之内
Tel. 03-5573-4064・4078

●令和2(2020)年度ステージラボオンラインセッション「ワークショッププログラム」参加者募集のお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止とさせていただいたステージラボ大分セッションに代わる研修事業として、オンラインで参加いただける「ステージラボ オンラインセッション」を実施します。

本研修は、公共ホール・劇場等および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体の職員の方々を対象として、オンラインにおいても双方向コミュニケーションを重視した実践的な研修を目指して実施します。また、ご都合に合わせて受講いただけるよう、アーカイブ配信も予定しています。

本セッションのうち、今回は、双方向オンラインツールを用いて、ワークショップやグループディスカッションなど少人数ゼミ形式で行う「ワークショッププログラム」について、参加者募集を行います。詳細は、募集要領をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

募集締切:2021年1月20日(水) 必着

*「ワークショッププログラム」以外のプログラムに関する詳細および視聴申し込み方法は、次号の地域創造レターおよび当財団ホームページでお知らせします。

◎コーディネーター

白神ももこ(振付家・演出家・ダンサー/富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督)

◎サブコーディネーター

大園康司(振付家・ダンサー・ワークショップデザイナー・舞台音響家/かえるP主宰)

山本麦子(愛知県芸術劇場 プロデューサー)

●公共ホール音楽活性化事業(おんかつ導入プログラム)登録アーティストに関するお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020・2021年度登録アーティストの登録期間を1年延長し2022年度までとします。これに伴い、2023・2024年度登録アーティストオーディションは、2022年度に開催予定です。

【紹介メッセージ】

コーディネーター・白神ももこ

2020年、新型コロナウイルスの出現で私たちの生活環境が一転してしまい、全世界の人が未知なる道を模索していくことになりました。劇場もアーティストもその空間や機構、企画や表現方法を考え直さなくてはいけない局面に立たされ、既にさまざまな企画や表現に挑戦している人もいれば、なす術がわからず立ち尽くしてしまっている人もいます。

今回のこのプログラムでは、オンラインを利用しながら地域や自分の劇場の特徴などを今一度見直し、参加者やコーディネーター、アーティストとの対話を通して「今何をすべきか」のみならず「今何がしたいのか」を発見し、実際にかたちにしてみるまでを行います。コーディネーターである私自身も初めての試みですし、みんなが初めてのことです。このラボの時間を活用し、色々な能力やノウハウをシェアしながら一緒にまだレールのない未知のものに面白がって取り組めたらと考えています。

◎ワークショッププログラム概要

[日程] 2021年2月25日(木) ① 10:00～12:00、② 14:00～17:00 / 2月26日(金) ③ 10:00～12:00、④ 14:00～17:00(全4回)

[会場] オンライン

※双方向オンラインツール(Zoom、Googleドライブ、Spatial.Chat等)を使用予定

[定員] 15人程度

[対象] 公立文化施設(ホール・劇場等)の職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体の職員

*上記時間以外で「オンライン交流会」を開催予定です。(任意参加、ワークショッププログラム参加者以外も参加可)

詳細は決定次第、ホームページなどでお知らせします。

◎2020-2022年度登録アーティスト

齊藤一也(ピアノ)、石上真由子(ヴァイオリン)、梅津碧(ソプラノ)、竹多倫子(ソプラノ)、新野将之(打楽器)、高橋ドレミ&實川風(ピアノデュオ)

●令和3(2021)年度地域創造事業実施時期の変更について

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の延期開催に伴い、地域創造では、例年夏時期に開催している「地域創造フェスティバル」について、下記のとおり開催時期と内容を変更して実施する予定です。また、原則年2回開催している「ステージラボ」については後期セッションのみ開催予定です。各事業の詳細は決まり次第、地域創造レターや当財団ホームページにてご案内いたします。

事業名	開催日・開催会場(予定)
地域創造フェスティバル2021 ※おんかつ支援登録アーティストプレゼンテーションを含む	2021年5月25日、26日/東京都内(会場未定)
ダン活登録アーティストプレゼンテーション ※例年「地域創造フェスティバル」として開催	2021年10月27日/としま区民センター(東京都豊島区) ※令和4(2022)年度ダン活実施団体向け研修会は10月26日～28日
ステージラボ ※例年前期・後期の2回開催	2022年2月15日～18日/穂の国とよはし芸術劇場(愛知県豊橋市) ※後期セッションのみ開催

●令和3(2021)年度地域創造事業に関するお問い合わせ

◎地域創造フェスティバル
芸術環境部 吉川
Tel. 03-5573-4068

◎ダン活登録アーティストプレゼンテーション
芸術環境部 栗林・青井
Tel. 03-5573-4055・4077

◎ステージラボ
芸術環境部 児島・吉川・崎山
Tel. 03-5573-4183

●令和3(2021)年度「リージョナルシアター事業」

◎派遣アーティスト

- 多田淳之介(東京デスロック主宰、演出家)
- 田上豊(田上バル主宰、劇作家・演出家)
- 有門正太郎(有門正太郎プレゼンツ主宰、演出家・俳優)
- 福田修志(F's Company代表、劇作家・演出家)
- ごまのはえ(ニットキャップシアター代表、劇作家・演出家・俳優)

◎アドバイザー

- 内藤裕敬(南河内万歳一座座長、劇作家・演出家)
- 岩崎正裕(劇団太陽族代表、劇作家・演出家)

◎実施予定団体

- 秋田県
- 福井県大野市
- 静岡県島田市(島田市民総合施設プラザおおろり)
- 静岡県掛川市(掛川市二の丸美術館、掛川市ステンドグラス美術館)
- 熊本県荒尾市(荒尾総合文化センター)
- 北海道大空町
- ※大阪府枚方市(枚方市総合文化芸術センター)
- ※福岡県久留米市(久留米シティプラザ)
※は令和2年度からの延期団体のため、研修会には不参加。

◎問い合わせ

芸術環境部 藤原・宮下
Tel. 03-5573-4124

●令和3(2021)年度「リージョナルシアター事業」研修会報告

令和3年度リージョナルシアター事業の実施予定団体と派遣アーティストが集まり、事業についてのオリエンテーションやディスカッション、打ち合わせを行う研修会が、2020年11月16日(月)・17日(火)の2日間にわたって開催されました。

今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施予定団体の担当者、派遣アーティスト、地域創造を繋ぐ研修会をオンラインで開催することに決定し、初めての試みとしてZoomによる研修会を実施しました。

研修会には、令和3年度事業実施予定の5団体(秋田県、福井県大野市、静岡県島田市、静岡県掛川市、熊本県荒尾市)から16名が参加し、当事業の趣旨や可能性を共有する2日間となりました。

地域の課題やホールの展望などを踏まえながら、住民等を対象にしたワークショップや学校へのアウトリーチを行う当事業では、派遣アーティストと実施団体が協働しながらプログラムをつくり実施していきます。今回の研修では、地域・ホールのやりたいことや抱える問題意識、また演劇的手法を使ったワークショップの効果や可能性などを、事業担当者と派遣アーティストで共有するための対話を中心として進められました。またオンラインでは長時間の交流が難しいことを鑑み、研修会前に一度Zoomを活用して実施団体と派遣アーティストの「顔合わせ」を行い、事前にお互いの人となりを知る時間を設けました。

研修会の初日はまず事業説明を行ったのち、

「事例紹介」と称して派遣アーティスト5名とアドバイザー2名に、ワークショップ事例やこれまでの成果や苦勞、事業担当者の役割や心構えについてお話いただきました。プログラムの自由度が高い演劇ワークショップならではの楽しさや難しさ、また継続することの重要性にも話が及んだほか、コロナ禍での実施例についてもふれる場面があり、参加者たちは自らの地域やホールに照らし合わせながら考えをめぐらせることになりました。

2日目は前日のオリエンテーションを踏まえて、派遣アーティストと実施予定団体による企画打ち合わせが行われました。それぞれのミッションや課題を基に、その地域ならではのプログラム実現に向けて熱心な話し合いがグループごとで行われました。

今回はオンライン研修という初めての取り組みでしたが、事業担当者以外にも研修の様子を見ることができるなど思わぬ利点もありました。実施予定団体の来年度の企画実施にご期待ください。



Zoom研修会の様子

財団からのお知らせ

●「公共ホール音楽活性化事業」に関する問い合わせ
芸術環境部 山之内
Tel. 03-5573-4078

地域創造ホームページ

「特別寄稿 ビューポイント view point」の第2回を掲載しました

創造的な地域づくりを刺激する知見や、文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジングな取り組みを、有識者やキーパーソンから寄稿していただくページ「特別寄稿ビューポイント viewpoint」を9月に開設しました。

第1回の北川フラムさんに続き、第2回の今回(12月15日更新)は、国際的に活躍するピアニストで地域創造理事としてもご尽力いただいている仲道郁代さんからの報告です。

<https://www.jafra.or.jp/library/other/7443.html>



●令和2(2020)年度「公共ホール音楽活性化事業」がスタート

地域創造の「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」では、普段クラシックの演奏会に足を運ばない人との出会いや交流を目指し、地域のさまざまな場所で工夫を凝らしたミニコンサートや参加体験型企画を実施しています。新型コロナウイルス感染防止の対策を講じた上で、今年度の事業が本格始動しました。

今年度のおんかつでは、2020-2022年度登録アーティスト(新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、登録年を1年延長)が11月から来年3月まで全国6地域で事業を展開します。今号では11月19日~21日の同日程で開催された、岩手県奥州市と広島県府中市の模様をご紹介します。

奥州市は、岩手県の内陸南部に位置する、人口約11万5,000人の市です。2006年に、水沢市・江刺市の2市、および胆沢郡の前沢町・胆沢町・衣川村の2町1村が新設合併して誕生しました。市内には4つの公共ホールがあり、それぞれ特色のある事業を展開しています。その中で、前沢ふれあいセンターの指定管理者である特定認可法人前沢商工会が主催となり、ピアニストの齊藤一也さんを招いておんかつが実施されました。

前沢小学校の4年生を対象としたアクティビティ(地域交流プログラム)は、担当の大橋さんの要望で、齊藤さんの演奏から子どもたちに自由にイメージしてもらい、クラシックを好きになるきっかけを与えてあげたいというコンセプトでした。曲に合わせて齊藤さんがご自身で撮影した海外の景色を写しながらの演奏や、『猫ふんじゃった』と『小犬のワルツ』をミックスアレンジした楽曲で子どもたちの想像力を膨らませたり、充実したプログラムを展開しました。大橋さんは、「コロナ禍でピリピリしていた雰囲気が、齊藤さんがピアノを弾けば魔法のようにみんな笑顔に変わった」と振り返っていました。

府中市は、広島県の東南部内陸地帯に位置する人口約3万8,000人の市です。「府中」の名は、8世紀頃にこの地に「備後国府」が置かれ、備後国の政治・経済・文化の中心地であったことに由来します(市HPより)。全国でも珍しい公立の小・中一貫教育が行われる府中市において、府中学園の8年生、府中明郷学園の9年生(各々中学校2・3年生に相当)を対象にヴァイオリニスト・石上真由子さん(ピアノ・江崎萌子さん)によるアクティビティが実施されました。ファリャ『スペイン舞曲』の軽快な演奏に始まり、クライスラー『美しきロスマリン』、バッハ、ベートーヴェン等が演奏されると、生徒たちは皆、美しい音色に感動してしま

た。また、石上さんは“医師免許をもつヴァイオリニスト”という異例の経歴をもつ演奏家です。曲の合間に話される経験談についても、生徒たちは関心をもって聞いている様子でした。コロナ禍によりさまざまな学校行事が中止となった今年度。生徒たちにとって、プロの生演奏を間近で聴けた今回のおんかつは、貴重な経験になりました。

最終日には、府中市文化センターにて「ふちゅう音楽コンサート～FUCHU・ON(音)～」を開催。チケットは、ほぼ完売でした(客席約50%使用)。アクティビティでも第1楽章を演奏したベートーヴェン『ヴァイオリン・ソナタ第10番』を全楽章演奏したほか、地元で活躍する府中シティオーケストラとの共演によるブルッフ『ヴァイオリン協奏曲第1番』の演奏は、まさに「圧巻」の一言。きっと皆さんの心に残る、充実したコンサートをお届けすることができました。



上：齊藤一也さんによるアウトリーチ(奥州市立前沢小学校4年生)
中：石上真由子さんによるアウトリーチ(府中学園8年2組)
下：「ふちゅう音楽コンサート～FUCHU・ON(音)～」
(ヴァイオリン：石上真由子、ピアノ：江崎萌子/府中市文化センター)

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●地域通信欄掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示しているのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 崎山・児島

●2021年3月号情報締切
1月29日(金)

●2021年3月号掲載対象情報
2021年3月～5月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●北海道帯広市

北海道立帯広美術館
〒080-0846 帯広市緑ヶ丘2番地
Tel. 0155-22-6963 蘭部容子
<http://www.dokyo.pref.hokkaido.lg.jp/hk/obj/>

池田緑展

十勝在住の現代アート作家・池田緑。本展では、プラスチックテープを素材とした作品や環境問題へのアプローチでもある「マスク・プロジェクト」など、“時間”や“言葉”、そして“社会”と向き合いながら自身の歩みや自身を取り巻く環境を作品化してきた池田の作品を展示する。中学生以上を対象としたワークショップも開催予定。

[日程]2020年12月19日～3月21日
[会場]北海道立帯広美術館



池田緑《My Place on Earth(地球の私の居場所)》—1943年4月3日に生まれて—
(2010年～(継続制作)/作家蔵)
Photo: Hiroo Namiki

●青森県青森市

阿部合成展実行委員会
〒038-0021 青森市安田字近野185
Tel. 017-783-3000 桑嶋智実
<http://www.aomori-museum.jp>

生誕110周年記念 阿部合成展 修羅をこえて～「愛」の画家

青森市生まれの画家・阿部合成(1910～72)の生誕110周年を記念して、青森県立美術館で開催する初の回顧展。平成から令和にかけて、災害や疫病など、新たな危機に直面しつつある今、“東北と中央”“戦争と人間”とい

った近代日本の社会の矛盾に翻弄されながら、苦悩の中に独自の芸術を追求した阿部の芸術の意義を改めて問い直す。
[日程]2020年11月28日～1月31日
[会場]青森県立美術館

●岩手県北上市

北上市文化創造
〒024-0084 北上市さくら通り2-1-1
Tel. 0197-61-3300 高橋裕亮
<http://www.sakurahall.jp/>

北上市民劇場 新・演劇プログラム「北上人の知られざる人生」

北上市民の知られざる一面を基に演劇作品を創作する、2カ年の演劇プログラムが新たにスタート。公募で集まった市民と共に、ホールの位置する黒沢尻2区の人々に「愛するもの」をテーマにインタビューを行い、取材で集まったエピソードからシナリオを作成。1月は劇場の上演、発表を行う。演劇を通して、同じ地域に暮らしながらも知らなかった市民の暮らしや人生のワンシーンを共有し、暮らしの楽しみや面白さを見つめ直す。
[日程]1月17日～31日
[会場]北上市文化交流センター さくらホール

●秋田県横手市

アーツセンターあきた
〒010-1632 秋田市新屋大川町12-3(アトリエももさだ内)
Tel. 018-888-8137 岩根裕子
<https://www.artscenter-akita.jp/>

ARTS & ROUTES

—あわいをたどる旅—

江戸時代後期、東北各地をくまなく歩き、図絵や文章を数多く残した紀行家で博物学者の菅江真澄を現代アートの視点でとらえるとうなるのか、「旅と表現」を主題として、現代の作家が出来事や時間など形をもたないものを展覧会へと描き出す試

み。岩井成昭、長坂有希、迎英里子、藤浩志らが出展、リサーチアソシエイトとして石倉敏明(人類学者)と唐澤太輔(哲学者)が参加。企画監修は服部浩之。
[日程]2020年11月28日～3月7日
[会場]秋田県立近代美術館

関東

●埼玉県川口市

川口総合文化センター・リリア
〒332-0015 川口市川口3-1-1
Tel. 048-258-2000 大畑和正
<https://lilia.or.jp/>

埼玉ゆかりの名歌手たちによるニューイヤーコンサート

昨年7月に開館30周年を迎えたことを記念し、これまで会館主催のコンサートに出演するなど、関わりの深い埼玉県出身・在住のオペラ歌手12名が一堂に会するガラ・コンサートを企画。新型コロナウイルス感染症の影響により1月に延期し、恒例のニューイヤーコンサートとコラボレーション。それぞれ得意とする役柄のオペラ・アリアを披露し、華やかに新年を迎える。
[日程]1月16日
[会場]川口総合文化センター・リリア

●千葉県

千葉県立美術館
〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1
Tel. 043-242-8311 松田直子
<http://www2.chiba-muse.or.jp/ART/>

魔法の手 ロッカクアヤコ作品展

ヨーロッパを拠点に活躍する千葉県出身のアーティスト・ロッカクアヤコの国内公立美術館では初の大規模な作品展。初期から一貫して筆ではなく手を使い、勢いある自在なタッチとネオンカラーのカラフルな色彩で作品を表現しているロッカク。本展では、シェイプド・キャンバスやフラワーベースなどさまざまな“形”に

取り組んだ作品や当館での滞在制作を含む未発表の新作を中心に約160点を展示。
[日程]2020年10月31日～1月11日
[会場]千葉県立美術館

●東京都三鷹市

三鷹市美術ギャラリー
〒181-0013 三鷹市下連雀3-35-1 CORAL(コラル)5F
Tel. 0422-79-0033 浅倉祐一朗
<https://mitaka-sportsandculture.or.jp/gallery/>

三鷹市美術ギャラリー収蔵作品展I 鬚嘔

当館では今年から5年間にわたって年に1度収蔵作品展を開催。第1回となる今回は、最も多くの作品を収蔵している現代美術家・鬚嘔(あいおう)を取り上げる。33歳のとき初めてレインボー作品を発表し、以後現在に至るまで、赤から紫までの可視光をあらゆるものに重ね合わせるレインボー作品を世界各地の展覧会で発表してきた鬚嘔。今回は、版画をメインに計173点を展示する。
[日程]2020年12月5日～2月28日
[会場]三鷹市美術ギャラリー

●横浜市

横浜市磯子区民文化センター杉田劇場
〒235-0033 横浜市磯子区杉田1-1-1 らびすた新杉田4F
Tel. 045-771-1212 清水一徹
<https://www.sugigeki.jp/>

雅楽×現代—真鍋尚之 笙リサイタル

地域に根付く芸能の伝承・普及を目的として、区内の文化資源調査や伝統芸能鑑賞プログラムを実施する「杉田劇場 アートde 伝承プロジェクト」。今回は区内在住の笙奏者・真鍋尚之を迎

え、リサイタル公演を初開催。日本の現代音楽作曲家である湯浅譲二、清水一徹によって作曲された笙のための作品のほか、国内外公募により選ばれた3作品(世界初演)をお届けする。
[日程]1月23日
[会場]横浜市磯子区民文化センター杉田劇場

北陸・中部

●新潟市

新潟市新津美術館
〒956-0846 新潟市秋葉区蒲ヶ沢109-1
Tel. 0250-25-1300 奥村真名美
<http://www.city.niigata.lg.jp/nam/index.html>

生誕100年記念 日本画家・横山操展 —その画業と知られざる顔—

昭和を代表する日本画家・横山操(1920～73)を紹介する展覧会。代表作はもとより、青龍展初入選の《渡船場》や、戦後の青龍展での出品作に加え、これまで公開されることの少なかった小品や素描も展示され、豪放かつ繊細な画風で日本画界に新風を巻き起こした横山の画業と知られざる一面が紹介される。
[日程]1月23日～3月21日
[会場]新潟市新津美術館

●山梨県甲府市

山梨県立美術館
〒400-0065 甲府市真川1-4-27
Tel. 055-228-3322 太田智子
<https://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/>

栗田宏一・須田悦弘展

—Contentment in the details—

ともに山梨県出身である2人のアーティストにスポットを当てた展覧会。栗田はさまざまな土地を旅して採集した地域ごとに色の異なる土を、須田は精巧な木彫を制作し、それをさまざまな空間に配置するインスタレーシ

●「TPAM—国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2021」開催のお知らせ

国内外の重要な劇場・フェスティバル・芸術文化団体から数百人の関係者が集い、公演や交流プログラムを通じて、舞台芸術の創造・普及・活性化のための情報を交換し、ネットワークを広げるプラットフォーム「TPAM(ティーパム)—国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2021」が2月に横浜市内各所で開催されます。

新型コロナウイルス感染症対策による移動制限の中での開催となる今回のTPAMは、「いま・ここ」との遭遇とその経験の共有としてのライブ・パフォーマンスの意味を再考します。会期前にプレイベント期間も設け、余裕をもって参加することが可能となりました。来場が難しい方や遠隔地・海外からのオンライン参加も一部可能です。

参加者自身がテーマを設定してミーティングを主催できる交流プログラム「グループ・ミーティング」では、劇場やアーティスト団体、助成団体、公立文化機関の活動紹介だけでなく、関係者同士で共有したい課題など多様なテーマでミーティングが行われます(現在ホスト登録を受け付け中。締切:2021年1月15日)。また、ゲストを招いて舞台芸術と社会を繋ぐさまざまなトピックをテーマにしたシンポジウムやトークも実施されます。

公演プログラム「TPAMディレクション」では、世界の舞台芸術の最新動向を反映した5作品が上演されます。その他、新人から国際的に評価されるプロジェクトまで多様な公演が集まる公募プログラム「TPAMフリンジ」も開催。未だ見ぬ才能を発見するチャンスです。

参加登録はウェブサイト(<https://www.tpam.or.jp>)からお申し込みください。

●TPAM—国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2021

[会期]2021年2月6日～14日(プレイベント期間 1月24日～2月5日)

[主会場]KAAT神奈川芸術劇場、BankART Temporary(ヨコハマ創造都市センター)、横浜市役所アトリウム、横浜赤レンガ倉庫1号館

[主催]国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2021 実行委員会(公益財団法人神奈川芸術文化財団、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、PARC—国際舞台芸術交流センター)

[助成]公益財団法人野村財団

[協力]BankART1929

[後援]外務省、文化庁、神奈川県、横浜市

[提携事業]横浜ダンスコレクション 2021、舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM)、ヨコハマアートサイトラウンジ、舞台芸術AiRミーティング、JaDaFo ダンスシンポジウム 2021、アーツコミッション・ヨコハマ、プリティッシュ・カウンシル



左: TPAMディレクション「DULL-COLORED POP [福島三部作] (作・演出: 谷賢一) ©bozzo

右: TPAMエクステンジグループ・ミーティング Photo by Yuri Yamada

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

ョン作品を展示。本展の最後では両者の作品を並置し、共通点と相違点を対比的に紹介する。副題は「細かなものに充足を覚える態度」を意味し、二人の作品を通して、身の周りの小さな対象に目を向ける重要性を伝える。

[日程] 2020年11月14日～1月31日
[会場] 山梨県立美術館

近畿

●京都市

京都市音楽芸術文化振興財団
〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13

Tel. 075-771-6051 長野夏織
<https://rohtheatrekyoto.jp/>

シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 Vol.4 雅楽～現代舞踊との出会い

伝統芸能の継承と創造を目指すシリーズの第4弾。今回は雅楽と現代舞踊の出会いをテーマに、雅楽演奏団体・伶楽舎、りゅーとびあを拠点に活動するNoism Company Niigataとその芸術監督である金森稷によるコラボレーション公演を開催。金森演出振付の『残影の庭—Traces Garden』は本公演が初演、雅楽の新たな魅力を引き出す。

[日程] 1月10日

[会場] ロームシアター京都

●和歌山県和歌山市

和歌山県文化振興財団
〒640-8269 和歌山市小松原通1-1

Tel. 073-436-1331 仁坂博昭
<http://www.wacaf.or.jp/>

日本の伝統芸能～能と京舞～

和歌山県民文化会館開館50周年事業として、人間国宝・五世井上八千代(京舞)と能楽会の麒麟児・十世片山九郎右衛門(能)の姉弟による特別公演を開催する。京都・祇園の花街を中心に育まれ、雅やかで格調高い美に

満ちた京舞と世界無形遺産に指定されている能楽の共演は和歌山では初めて。

[日程] 1月30日

[会場] 和歌山県民文化会館

中国・四国

●鳥根県浜田市

浜田市教育文化振興事業団
〒697-0016 浜田市野原町859-1
Tel. 0855-23-8451 高野訓子

<http://www.hamada-kodomo-art.com/>
動く木のアート展

浜田市世界子ども美術館が“木のアート”をテーマに展開している「木のアートプロジェクト」第2弾。昨年開催した「あそぶ木のアート展」に続き、今年は“動く”作品に焦点を当て、木や地域の魅力に迫る。見て、触って、動かしながら五感を通して木のアートを体感できるほか、2名のアーティストが浜田の森で育った木を“動く”作品に生まれ変わらせた新作も披露される。感染症対策として、日時指定の完全予約制で開催される。

[日程] 2020年10月17日～1月11日
[会場] 浜田市世界子ども美術館

●山口県山口市

山口情報芸術センター[YCAM]
〒753-0075 山口市中国町7-7
Tel. 083-901-2222 会田大也
<https://www.ycam.jp/>

quartets online

2008年にYCAMが発表した音楽家・大友良英らのインスタレーション作品《quartets》をオンラインで鑑賞できるようにした新作。《quartets》は、8名の音楽家の演奏を捉えたシルエットのみの映像が素材となっている。コンピューターによって常に新しい組み合わせが生成されるため、どの瞬間も一度きりの“即興演奏”となる。

[公開期間]

2020年9月9日～9月8日(1年間)

[特設ウェブサイト]

<http://special.ycam.jp/quartets/>

九州・沖縄

●長崎県長崎市

ながさきUTAOTO委員会
〒850-0056 長崎市恵美須町4-5 NBC第3ビル2F

Tel. 095-820-1081 田川尚美
<https://nagasakiutaoto.jimdofree.com/>

マダム・バタフライフェスティバル2021

オペラ歌手コンクール「マダム・バタフライ国際コンクールin 長崎」過去5回の邦人入賞者が長崎に集い、「今だから伝えたい歌」をガラコンサート形式でお届けする。親子向けの企画として、『蝶々夫人』を音楽ドラマにした「ブッチーニおじさんのマダム・バタフライ物語」、大人向けには、昭和期の長崎で流行した『蝶々夫人』関連の歌謡曲に着目した「長崎の蝶々さん」を同時開催。

[日程] 1月23日、24日

[会場] 長崎ブリックホール

●熊本市

熊本市現代美術館
〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3

Tel. 096-278-7500 坂本顕子
<https://www.camk.jp/>

豊田有希写真展 あめつちのことづて/令和2年7月豪雨REBORNプロジェクト

現代になって水俣病の被害が判明しながらも、素朴な暮らしを営む芦北町黒岩地区の人々の農作業や祭り、食卓、ポートレートなどを撮った熊本市出身の写真家・豊田有希の写真展。令和2年7月豪雨で水損被害を受けた八代市坂本町の古い写真ネガを、再プリントする「REBORNプロジェクト」も併せて紹介する。

[日程] 1月20日～4月4日

[会場] 熊本市現代美術館

●大分県別府市

混浴温泉世界実行委員会
〒874-0933 別府市野口元町2-35 菅建材ビル2F (NPO法人 BEPPU PROJECT内)
Tel. 0977-22-3560 月田尚子
<https://inbeppu.com>

梅田哲也 イン 別府『O帯』

国際的に活躍するアーティスト1組を招き、地域性を活かしたアートプロジェクトを展開する個展形式の芸術祭。5回目となる今回は、音楽や美術、舞台芸術など複数の分野を横断しながら活躍する梅田哲也を招聘。観客は地図と音声を手掛かりに、市内各所に点在する会場を回遊する。また、会場や会期を限定しないこととし、オンラインや出版物を活用しながら、会期後も作品の断片を体験できるようなプログラムを目指す。

[日程] 2020年12月12日～3月14日

[会場] 別府市内各所

●鹿児島県霧島市

みやまコンセル
〒899-6603 霧島市牧園町高千穂3311-29

Tel. 0995-78-8000 五代香織
<http://www.kirishima-imf.jp/>

第41回霧島国際音楽祭

1980年に始まった伝統の音楽祭。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、例年夏に開催している音楽祭を冬に延期して開催することに。今回は音楽監督の堤剛(チェロ)や藤田真央(ピアノ)のほか、パッハ・コレグウム・ジャパン(鈴木雅明指揮)が鹿児島初登場となる。公式YouTubeチャンネルにてオンラインコンサートも実施の予定。

[日程] 1月5日～12日

[会場] 霧島国際音楽ホール、宝山ホールほか

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

神戸市

横尾忠則現代美術館

「横尾忠則の緊急事態宣言」



上：横尾忠則現代美術館外観
中：「横尾忠則の緊急事態宣言」展示風景
下：見学可能なガラス張りのアーカイブルーム

●横尾忠則の緊急事態宣言

【会期】2020年9月19日～12月20日

【会場】横尾忠則現代美術館

【主催】横尾忠則現代美術館（公益財団法人兵庫県芸術文化協会）

*1 2020年12月時点で1,867点を収蔵。

*2 アーカイブルームは、事前申し込みで室内の見学や資料の閲覧もできる。

*3 2020年12月時点で、箱番号は0742、アイテム数3,304点がウェブサイトに掲載されている。

1960年代から現在までトップランナーとして走り続けている美術家・横尾忠則。兵庫県神戸市にある横尾忠則現代美術館は、作家から直接に寄贈・寄託を受けた作品と膨大な関連資料を基に、現存作家の作品と創作背景を研究・アーカイブし、展示公開するという類のない活動を行っている。

同館は、2012年11月に兵庫県立美術館王子分館西館をリニューアルして誕生した。2007年に地元・西脇市出身の横尾から個人所有の作品・資料の保管について相談を受けた井戸敏三兵庫県知事が美術館の設置を検討。作家からの寄贈・寄託の申し出を受けて検討委員会を立ち上げ、幅広い資料を次世代に受け継ぐアーカイブルームを備えた美術館構想をまとめた。

12月12日、「横尾忠則の緊急事態宣言」展を開催中の美術館を訪ねた。4階建てで、2・3階の展示室ではコレクションの中から横尾がコロナの危機感を予兆して描いたかのような絵画の周りに、連日ウェブで発表しているマスクのカラー作品が飾られていた。今回はウェブからのプリントだったが、展覧会に合わせて新作を描き下ろすこともある。「ぎりぎりまで内容が決まらないことも多く、展覧会制作としてはイレギュラーなことばかりです」と館長補佐兼学芸課長の山本淳夫さんは苦笑する。

山本さんは、芦屋市立美術博物館、滋賀県立近代美術館を経て、開館1年前に赴任。多忙を極める作家と調整し、10tトラック6台分の作品や資料を神戸に移送。大量のポスター類は一旦すべてを美術館に運び、そこから選別するという膨大な作業を経て、ようやく絵画や版画、ポスターなど1,500点余^{(*)1}と、700箱以上の資料が館に収められた。

問題は、その整理である。箱には無造作に多種多様な物が梱包されており、中身の見当がつかない。活動領域も交友関係も広く、原稿や印刷物もあれば、横尾が収集したグッズやポストカードなどもある。これらは、美術という観点からだけでなく、「戦後文化のアーカイブ」としてとても公共性の高いものだ。事前に慶應義塾

大学アート・センターなどからヒアリングを行い、「完璧にやろうとするとできなくなる。間違いは後から修正していけるのでまずは公開すること」というアドバイスを受け、整理に着手した。

「現役作家なので次々に資料が送られてきます(笑)。創作のために出し入れされることも多い。資料整理はすぐに成果が見えず、終わりが無い。多忙な美術館ではつい後回しになるので、当館では専任のアーカイブルーム^{(*)2}担当が進行計画を立て、全学芸課スタッフがローテーションを組んで毎日少しずつ作業をしています」と山本さん。

整理手順はマニュアル化されており、3段階ある。第1段階は現状記録で、低酸素濃度の殺虫処理などが完了したのものから箱に番号を振り、アイテム1点毎に簡易な撮影を行う(現状復帰できるよう開封手順も撮影)。1箱につき1,000カット以上の写真を撮影し、箱番号のデータフォルダで管理。第2段階は印刷物に利用可能な写真撮影と簡単な内容がわかるテキストを作成し、ウェブでも公開^{(*)3}。第3段階は展覧会で現物を公開するための状態調書の作成だ。

こうした資料は年3回程度行われる展覧会の企画づくりでも活用されている。アーカイブルーム担当の井上佳那子さんは、「担当学芸員によってアーカイブへの目線が違うのが面白い」という。例えば、「ヨコオ・マニエリスム vol.1」(2016年、平林恵企画)は、調査で見つかった額装された古いTシャツから発想された。これがジョン・レノンからの贈り物だと判明し、作家の交流と制作の関連を探る展覧会企画が立ち上がった。会場では100点以上の初出品資料の展示と、実際にスタッフが資料整理を行うコーナーも設けられた。また、「兵庫県立横尾救急病院展」(2020年、林優企画)では、展示室を病院に見立て、横尾の入院時の日記をフィーチャーした。

現役作家の美術館、現役作家のアーカイブという可能性は無限大だが、旺盛な制作意欲をもつ作家は既存の美術館の制度やアーカイブの常識を軽々と超えてくる。そんな創造と保存の葛藤が、横尾忠則現代美術館の活動をより刺激的なものにしている。(アートジャーナリスト・山下里加)